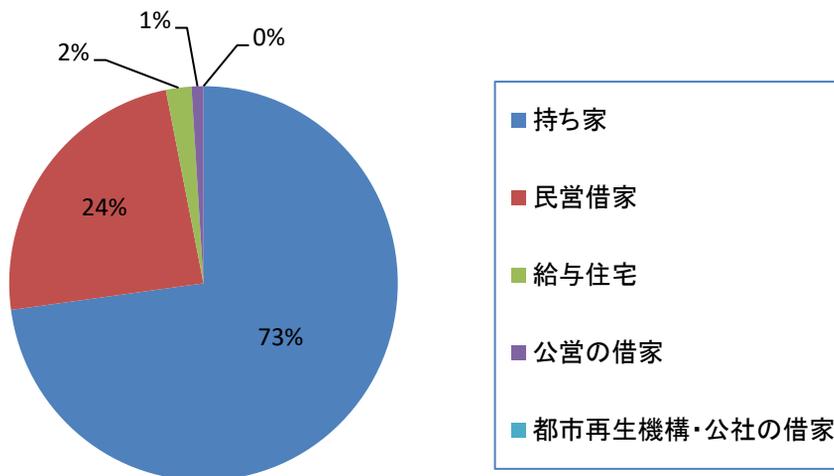


住宅・土地統計調査からみた 美濃加茂（令和5年10月1日実施）



調査にご協力いただき、ありがとうございました。
この調査は5年毎に実施しております。
次回は令和10年10月1日を期日として実施予定です。
ご協力をお願いいたします。

住宅の所有関係別割合



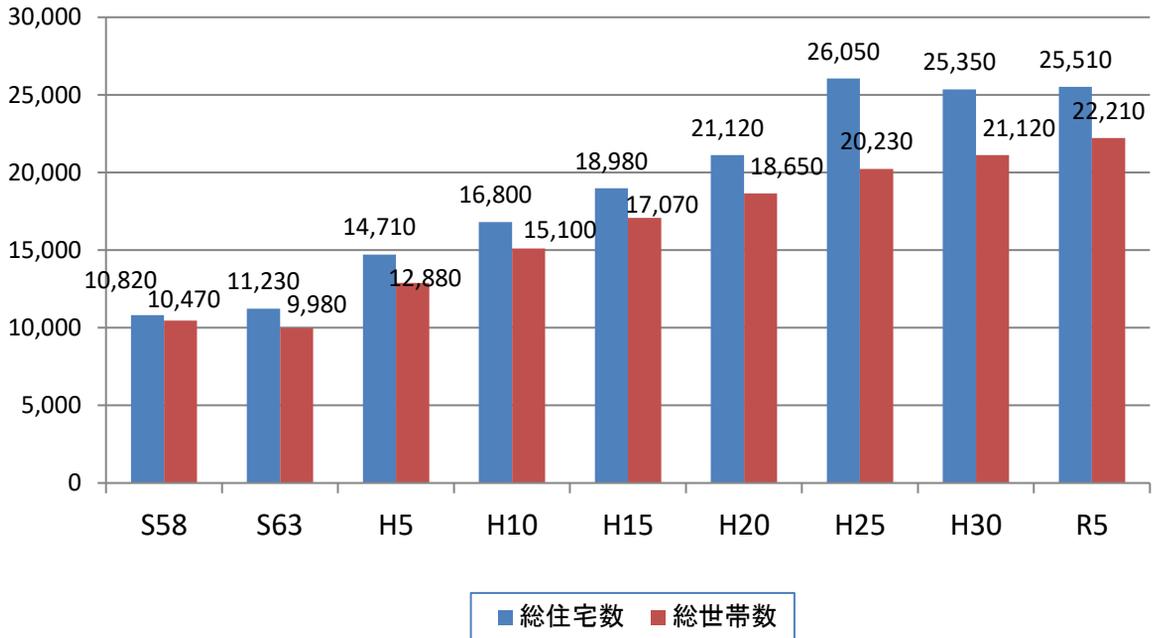
住宅の所有関係からみると、「持ち家」の割合が最も多いことがわかります。
全国の結果では「持ち家」の割合が60.9%となっています。
また、都道府県別では、最も「持ち家」の率が高いのは秋田県の77.1%、最も低いのは沖縄県の42.6%となっています。
岐阜県は73.7%で、全国6位となっています。

※住宅・土地統計調査は、市内全数調査ではなく、一定のルールに基づいて抽出した世帯を対象に実施しています。

【結果をみる上での注意】

- 統計表の数値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。
 - 全国及び都道府県は、10位を四捨五入して100位までを有効数字として表章
 - 市町村は、1位を四捨五入して10位までを有効数字として表章
- 本調査は標本調査であるため、統計表の数値は標本誤差を含んでいる。

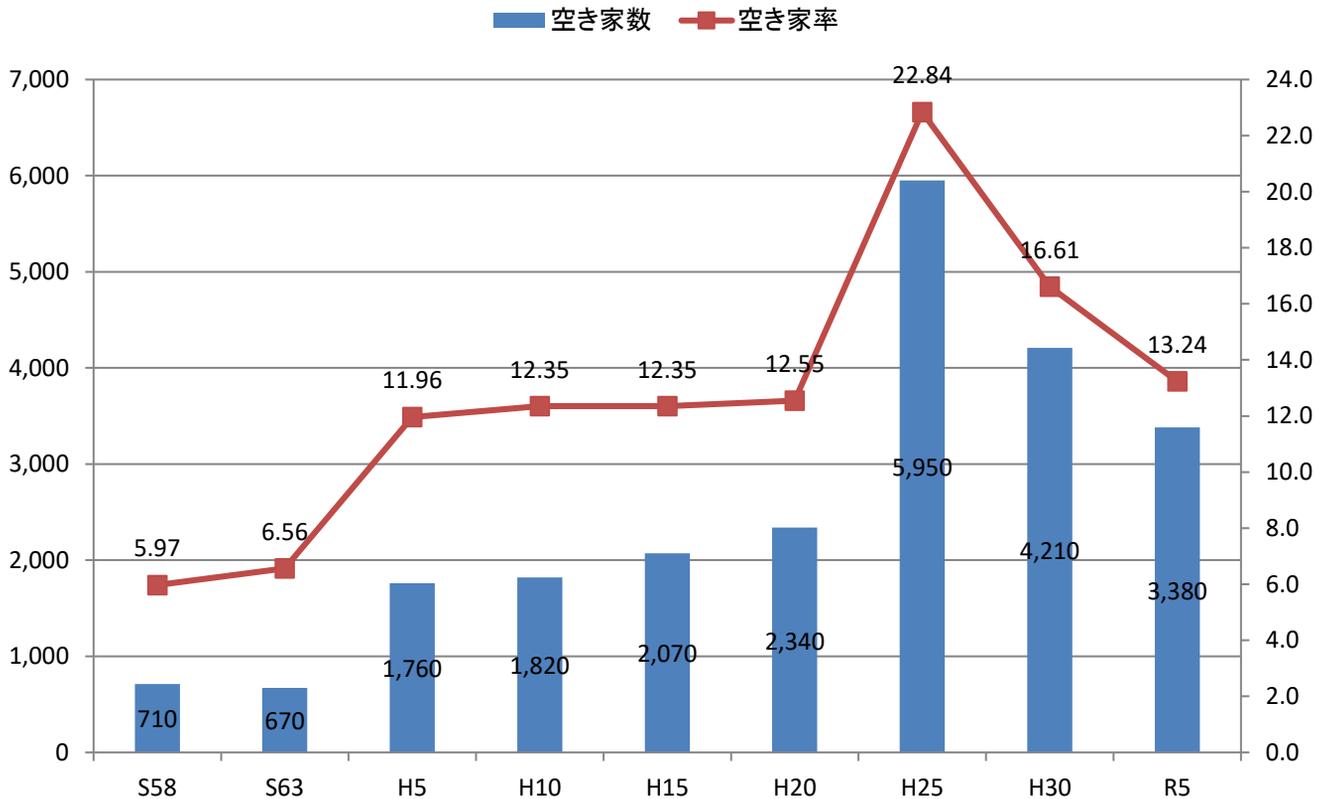
総住宅数、総世帯数の推移



総住宅数と総世帯数の推移を比較してみると、総住宅数と総世帯数の差は拡大しており、昭和58年の1世帯当たり住宅数は1.03戸でしたが、平成25年には1.29戸となっています。平成30年以降、その差は徐々に縮まり、令和5年には1.15戸となっています。



空き家数の推移



空き家数の推移をみると、平成20年から平成25年に大幅に増加しましたが、平成30年以降は減少し、令和5年には3,380戸となっています。しかしながら、全国的に空き家は増加しており、令和5年には約900万戸となり、5年前に比べて約50万戸増加しています。

県内21市との住宅の規模の比較(令和5年)

市	1住宅当たり 居住室 数(室)	県内 順位	1住宅当たり 居住室の畳 数(畳)	順位	1住宅当たり 延べ面積 (㎡)	県内 順位
岐阜市	4.84	20	37.02	20	106.68	20
大垣市	5.32	15	40.65	15	115.18	15
高山市	5.83	9	44.48	11	139.01	5
多治見市	5.07	17	39.34	17	113.26	16
関市	5.65	11	42.71	12	123.95	12
中津川市	5.73	10	44.85	10	128.33	10
美濃市	6.31	7	48.23	5	133.03	9
瑞浪市	5.65	12	45.42	9	127.20	11
羽島市	5.63	13	42.18	14	120.78	14
恵那市	6.39	5	47.60	6	138.62	6
美濃加茂市	4.98	19	38.03	19	109.34	18
土岐市	5.50	14	42.48	13	121.66	13
各務原市	5.10	16	39.13	18	110.47	17
可児市	5.04	18	39.63	16	108.67	19
山県市	6.35	6	46.91	8	133.84	8
瑞穂市	4.71	21	37.01	21	105.95	21
飛騨市	6.50	4	48.85	4	157.44	2
本巣市	6.30	8	47.58	7	136.83	7
郡上市	7.04	1	53.26	1	158.83	1
下呂市	6.60	3	49.55	3	144.38	4
海津市	6.96	2	52.34	2	152.15	3
全国	4.28		32.65		91.66	
岐阜県	5.48		41.87		120.25	

住宅の規模を県内の市別にみると、郡上市が居住室数、畳数、延べ面積において県内1位となっています。美濃加茂市は全国の数値を上回っていますが、岐阜県の数値は下回る結果となっています。

1住宅当たり居住室の畳数を都道府県別にみると、富山県(45.12畳)、秋田県(44.24畳)、山形県(43.55畳)、福井県(42.73畳)、新潟県(42.31畳)に次いで、岐阜県(41.87畳)は6位となっています。畳数が最も少ないのは、東京都(24.54畳)となっています。

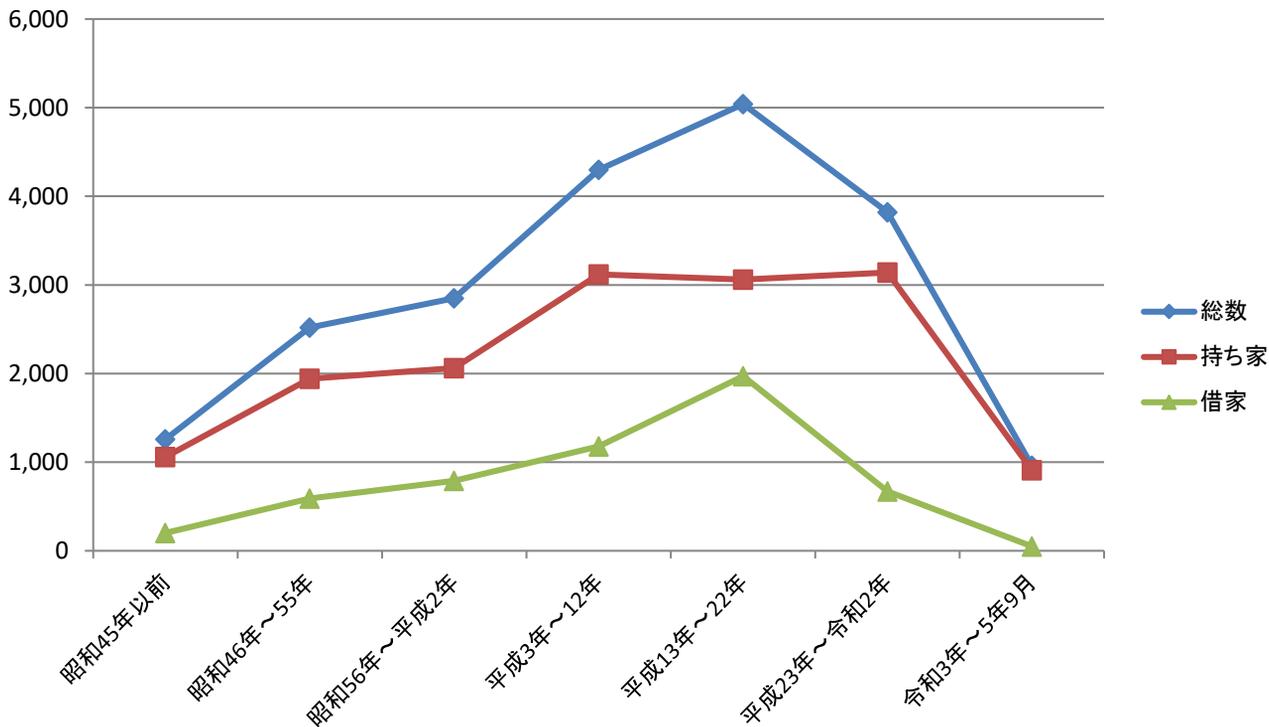
県内21市との住宅の規模の比較(昭和58年)

市	1住宅当たり 居住室 数(室)	県内 順位	1住宅当たり 居住室の畳 数(畳)	順位	1住宅当たり 延べ面積 (㎡)	県内 順位
岐阜市	5.40	14	33.09	14	99.44	13
大垣市	5.88	8	35.88	10	107.73	8
高山市	5.46	13	34.30	13	114.46	5
多治見市	5.48	12	34.75	12	96.63	14
関市	6.08	6	39.00	6	108.66	9
中津川市	5.78	10	36.72	9	110.39	7
美濃市	6.68	2	41.71	2	119.25	3
瑞浪市	6.38	4	41.25	3	119.84	2
羽島市	6.59	3	40.64	4	125.36	1
恵那市	6.25	5	39.23	5	114.71	4
美濃加茂市	6.75	1	43.86	1	114.05	6
土岐市	5.86	9	37.52	8	106.73	10
各務原市	5.67	11	35.35	11	100.85	12
可児市	6.04	7	38.62	7	104.92	11
全国						
岐阜県	6.15		38.38		115.12	

昭和58年の数値をみると、美濃加茂市は居住室数、畳数において県内1位となっており、他市と比較して住宅の規模が大きかったことがわかります。

令和5年の数値と比較すると、単身者や共同住宅の増加などにより、居住の実態が変わってきていることが読み取れます。

住宅の所有・建築時期別住宅数

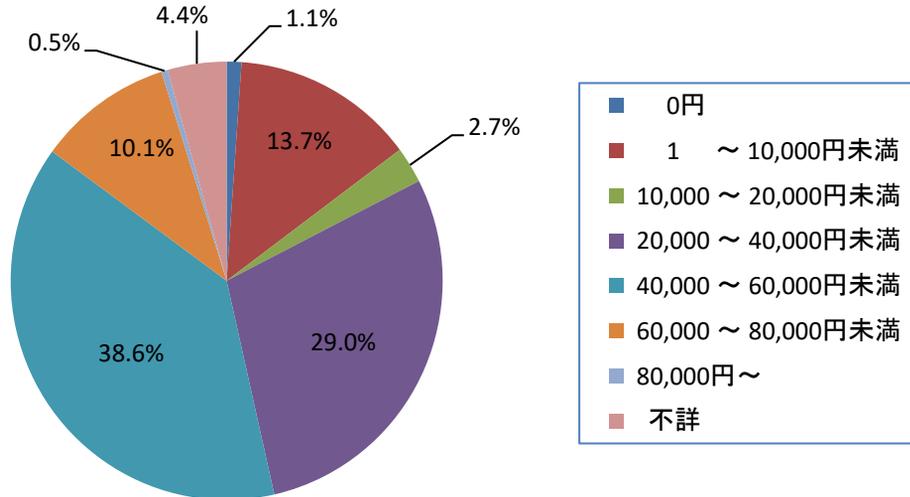


住宅の所有関係を建築時期別にみると、平成3年以降に建てられた持ち家に居住する世帯が多いことがわかります。借家は、平成13年から22年に建てられたものが最も多くなっています。

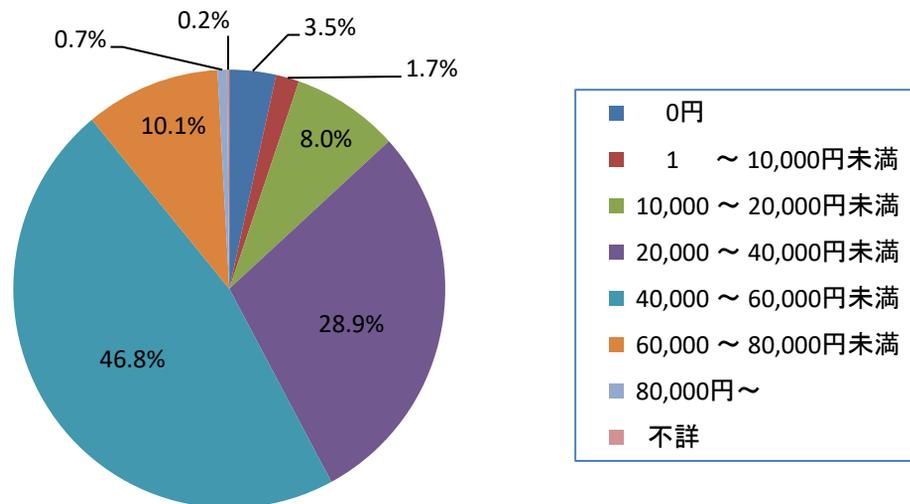


借家の1か月あたりの家賃

H25



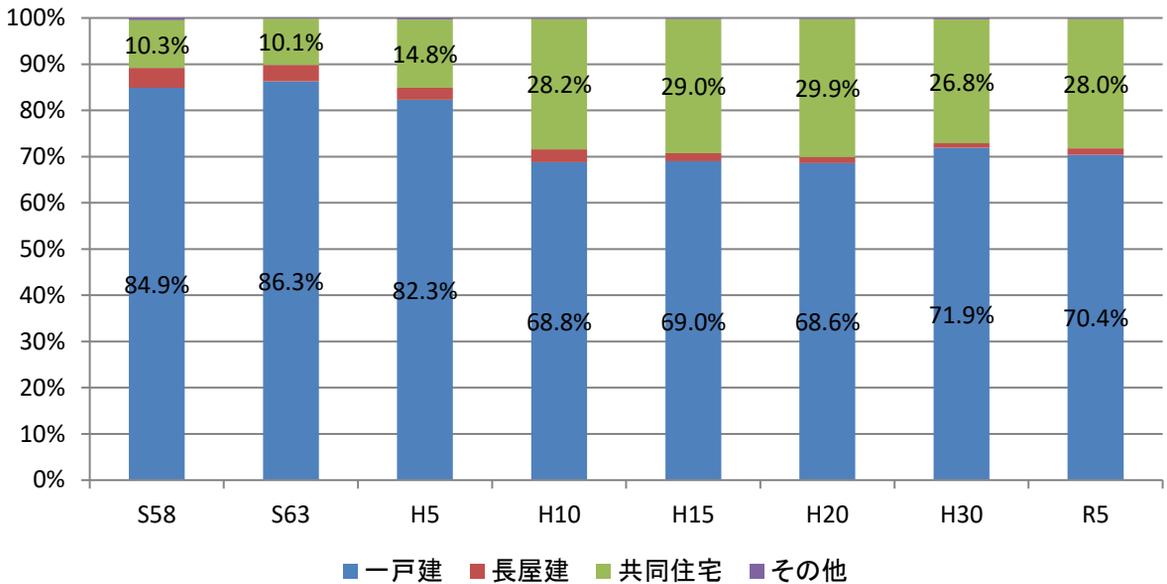
R5



借家の1か月あたりの家賃を10年前と比較すると、平成25年と同じく「4万～6万円未満」の割合が最も多く、令和5年には46%を上回りました。

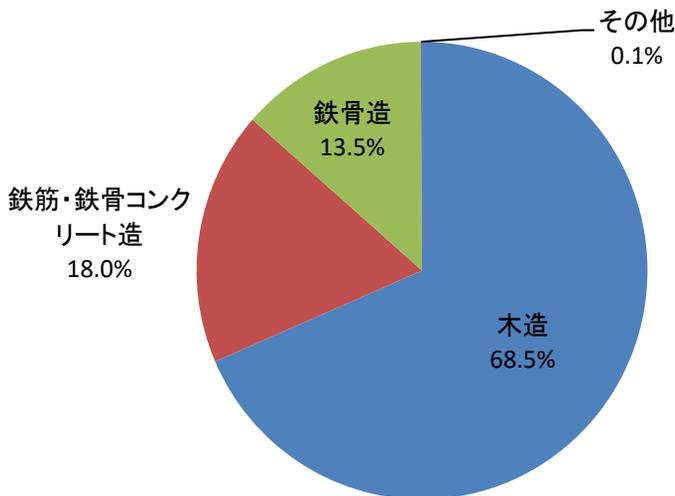
また、平成25年には14%以上あった「1万円未満」の割合は、令和5年には大幅に減少しており、家賃が高騰していることが読み取れます。

建て方別割合の推移



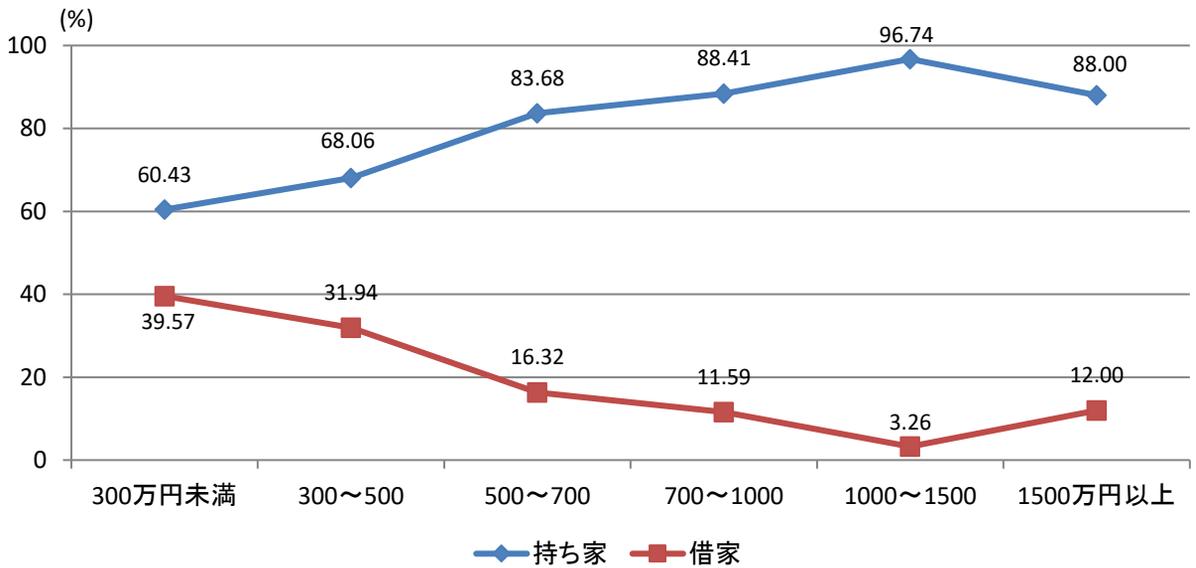
建て方別の割合をみると、平成10年に一戸建の割合が大きく減少し、共同住宅の割合が増加しました。その後、平成15年以降は大きな増減はみられず、おおむね現状で推移しています。
 ※共同住宅とは、1棟の中に2つ以上の住宅があり、廊下・階段などを共有しているものや2つ以上の住宅を重ねて建てたものをいいます。

住宅の構造別割合



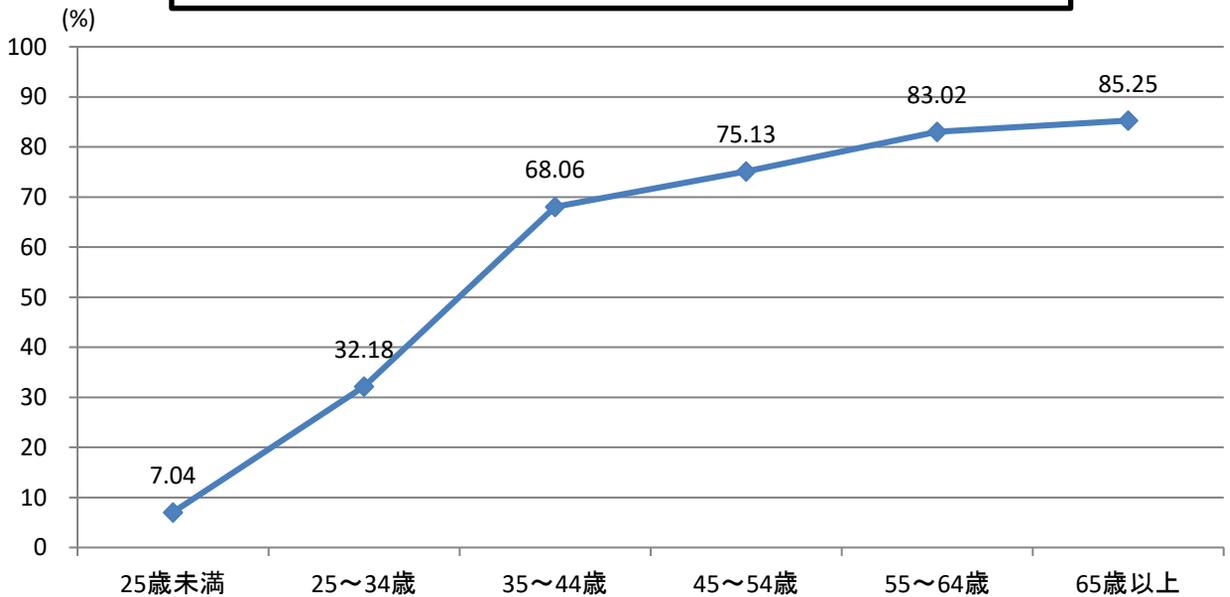
住宅の構造別の割合をみると、木造が全体の約7割を占めています。

世帯の年間収入階級別、住宅の所有割合



世帯の年間収入階級別に、住宅の所有関係を見ると、すべての階級において「持ち家」の割合が大きく、500万円以上の階級では8割を上回っています。
全国的には、「持ち家」と「借家」の割合の差は美濃加茂市よりも小さく、「持ち家」の割合は最大でも約84%にとどまっています。

家計主の年齢区分別、住宅の所有率



家計主の年齢区分別に住宅の所有率を見ると、年齢階級が高くなるほど「持ち家」の割合も高くなります。35歳以上の区分では6割を上回っており、30代後半から住宅を所有する世帯が多いことがわかります。